

# 扉

# TOBIRA

特別号



# 真宗十派

建暦元（1211）年流罪が赦免された親鸞聖人は、しばらくの間越後国にじじまった後、常陸国を中心に20年の関東教化を行ったんだ！

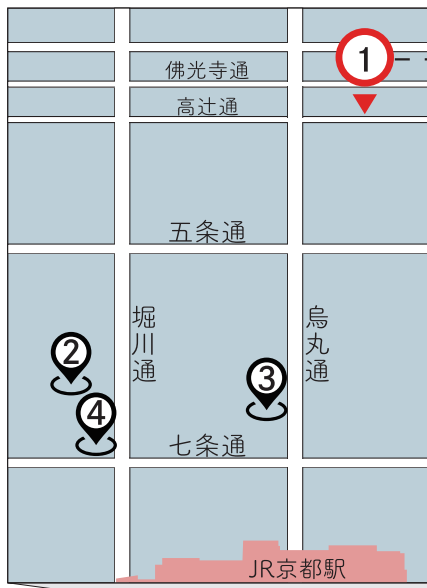
承元元（1207）年流罪となった親鸞聖人が上陸した「居多ヶ浜」はこのあたり。

「佛光寺は西本願寺ですか？  
それとも東本願寺ですか？」

このような質問をよく受けることがよくあります。浄土真宗の本山は西本願寺（浄土真宗本願寺派）と東本願寺（真宗大谷派）の二つに別れているという勘違いからでしょう。

実際には、親鸞聖人を宗祖と仰ぐ真宗教団は、血縁関係、師弟関係からなる系譜によって受け継がれ、様々な歴史的背景から、現在では主に十派に分流しています。西本願寺も、東本願寺もその十派のうちの一つです。

真宗佛光寺派は宗祖親鸞聖人から直弟の第2代真仏上人へと続き、現在の第33代真覚ご門主へと法灯が受け継がれています。



① 真宗佛光寺派・本山佛光寺  
京都府京都市高倉通仏光寺下ル新開町

私たちの本山はここだよ！

## 佛光寺以外の京都にある本山

- ② 浄土真宗本願寺派：本山 西本願寺：京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル
- ③ 真宗大谷派：本山 東本願寺（真宗本願）：京都府京都市下京区烏丸通七条上ル
- ④ 真宗興正派：本山 興正寺：京都府京都市下京区堀川通七条上ル

## 滋賀県にある本山

- ⑤ 真宗木辺派：本山 錦織寺：滋賀県野洲市木部826

## 三重県にある本山

- ⑥ 真宗高田派：本山 専修寺：三重県津市一身田町2819

## 福井県にある本山

- ⑦ 真宗三門徒派：本山 専照寺：福井県福井市みのり2丁目3-7
- ⑧ 真宗誠照寺派：本山 誠照寺：福井県鯖江市本町3丁目2-38
- ⑨ 真宗山元派：本山 證誠寺：福井県鯖江市横越町第13号43番地
- ⑩ 真宗出雲路派：本山 毫攝寺：福井県越前市清水頭町第2号9番地





## はじまりは草庵から

親鸞聖人は承元元(1207)年、念仏停止の命令により越後国府(現在の新潟県上越市)に流罪となり、五年の月日を新潟で過ごされました。

流罪が赦された翌年、建暦二(1212)年に京都に戻られ、山科の地にひとつの草庵を結びました。真宗佛光寺派ではこの草庵が始まりと伝えられています。当初は「興隆正法寺」と名乗っていました。

## 佛光寺の由来

佛光寺草創の当時は山科の地にありました。その後は第七代了源上人の時、場所を山科より京都市内東部、今比叡汗谷(いまひえいあせのたに)(現在の東山のふもと)の地へと移されました。この時に名称が佛光寺と改められました。

## 名称の由来

佛光寺が繁盛するにしたがつて、それを妬む輩が現れ、ある夜ご本尊や法宝物を盗み出して竹藪に投げ捨てました。

その夜、後醍醐天皇が夢枕に東南の方向から一筋の光が差し込むのをご覧になり、ただちに人を遣わせられたところ、阿弥陀如来のお木像が出てきました。その仏像が我がご本山の阿弥陀如来像の台座と一致した為、勅願により「阿弥陀佛光寺」略して佛光寺の寺号を賜ったと伝えられています。

佛光寺は豊臣秀吉の要請により、天正十四(1586)年に場所を汗谷より現在の地である京都市下京区新開町に移転し今日に至ります。





# 視覚

ニムケテ

# 伝道

スル

教えを受け継ぐために：

親鸞聖人が亡くなられたのち、弟子たちの間では「教えをいかに伝えるのか」が課題となりました。まず力を持つようになったのは関東における直弟（じきてい）と呼ばれる有力弟子たちでした。彼らは「親鸞生前中に直接教えを聞き給わった」という実体験から、弟子たちの間での存在感を高めていきました。

直弟はさらに地域性に加え独自の思想を織り交ぜた集団（門弟集団）を組織し、その集団の指導者的な立場として頭角を現すようになりました。

見ることでも伝わる教え

現在の佛光寺につながると思われる門弟集団のひとつは、親鸞聖人の教えを広めるために視覚的な伝道に力を入れます。それが「名帳」と「光明本尊」です。

【名帳とは？】

門弟の名を列記して教えの継承の系譜を示した帳簿のこと。佛光寺の了源上人やその後継者がこれを布教活動に使用しました。門弟の顔を描いた「絵系図」とともに用いられ、しばしば「名帳・絵系図」と称されます。

【光明本尊とは？】

礼拝の対象として、南無阿弥陀仏の名号から四方八方に放たれる光明の中に、お釈迦さまや阿弥陀さま、インド・中国・日本の高僧、聖徳太子などが描かれた掛け軸のこと。

まだまだ世間に浄土真宗が広まっていなかったなかで、その教えが見ることで伝わり、民衆に受け入れられて、理解が深められていきました。その結果、親鸞聖人の教えは関東の直弟のみならず、西日本の民衆へも広まるきっかけとなりました。こうした当時の佛光寺系門徒による西国布教は、教えを広め、受け継いでいく土台を作ったという大きな役割を果たしました。





# 第33代真覚ご門主 スベシャルインタビュー



『とびら』特別号の企画として真覚ご門主にインタビュをさせていただきます。来年に迫ります慶讃法会に向けての想いや幼少期のこと、趣味などについて聞かせていただきました。

—まずは趣味についてお聞かせください  
「書」は毎日書いていますし、半分趣味のようになっています。ご本尊の裏書きや院号法名などを書くときは、その先にいるご門徒さんの良き法縁となることを念じながらひとつひとつ丁寧に書いています。

—バイクにも乗られていたとか？

若い頃はバイクが趣味でした。大型のCB750というバイクに乗っていました。二ヶ月くらい掛けて日本一周をしたこともあります。母方の伯父がバイクに乗っていたのがきっかけですね。中国大陸、シルクロードやアメリカを横断した話など、いろいろ聞かせてくれたのを覚えています。

—日本一周していた中で印象深い出来事はありますか？

青森でタイヤ交換をした時のことですが、部品がなくて三日ほど足止めを余儀なくされました。その中で地元の方と意気投合したことがあります。青森の風土や文化、食べ物などを教えていただき、逆に私は宮崎のことを教えてあげたりと、話に花を咲かせました。旅の中で人の温かさに触れ、日々の生活のありがたみを感じました。

—日々気になっていることはありますか？

満遍なくといえますか、分野を問わずいろいろなことに興味を持っています。流行を追いかけてはしませんがアンテナを張って気にするようにしています。二、三年前に漫画「鬼滅の刃」が流行った時に読んでみたのですが、作者の方は浄土真宗の教えを聞かれている方なのかという印象を受けました。鬼が倒されると、必ず仏に出遇われて亡くな

られます。どんな凶悪な鬼でも、こんな自分をも包んでくださる仏の慈悲に包まれていることに慶びを抱くのでしょうか。

—若い世代への伝道についてお聞かせください

今の時代はSNSが発達しています。本山でも佛光寺チャンネルというYouTubeチャンネルやインスタグラムを開設しておりますが、それらを活かした新しい発信方法、表現方法を若い方にも参加してもらいながら探っていきたいと感じています。

—本山は京都の中心地にありますが、その利点は何ですか？

そうですね、本山は立地にも恵まれているのでその強みを生かしたご縁つなぎをしていきたいですね。布教と声明の二つを柱として伝道をしています。第三の柱となるような伝道方法も考えていきたいです。

—コロナ禍の中で、浄土真宗の教えは伝わるのでしょうか？

新型コロナウイルスの拡大で、既存の概念や常識を変えねばならないようなこともありましたが、ある方が、真宗の教えが「凡夫の自覚」だけで終わっているとおっしゃいました。真宗の教えというのはもってダイナミックで魅力的なものなんじゃない

いか？その魅力のアピールの仕方をもっと考えていかなければならないとおっしゃっていました。「凡夫の自覚」から開かれる生き方があると思います。



—その教えによって、人はどう変わる  
ことができるのでしょうか？

真宗の教えを聞いて何か良いことはあ  
るのか、ひよっとしたら人々はそちらの  
方が気になるのかもしれない。そうい  
う疑問に答えることこそが真宗の魅力を  
アピールすることになるのではないで  
しょうか。「教えを聞いて何が変わるの  
か」と若い人に聞かれてお話ししたい事  
は、一日一日の色が変わりますよとい

ことです。あとは「人生を輝かせるヒン  
トをもらえるかもしれないよ」というこ  
と。「答え」ではないのです。ヒントなの  
です。

—ご自身の中で教えの受け止め方が変  
わったことはありますか？

幼い頃に母方の実家の宮崎に移りそち  
らで生活をしていました。そこもお寺で  
したので、お寺のお手伝いなんかはよく

させられました。伯父伯母は厳しい方で  
したのでよくお叱りを受けました。法要  
のお手伝いが終われば本堂に行ってお話  
を聞きなさいと言われ、わけもわからず  
座っていたのを覚えています。なんでお  
寺なんかに生まれたのだろうと不満を口  
にしたこともあります。宗教は何のため  
にあるのだろう、お寺は何のためにある  
のだろうという疑問は幼い頃からありま  
した。世の中は時代と共に変化し、自由



が増えていくのはどうして自分はこんな  
窮屈な生き方をしなきゃならないのかと  
思っていました。反抗期もあり、引きこ  
もりも経験しましたし、いじめをしたこ  
ともされたこともあります。お寺にいな  
がら仏教なんてきれいだと思ってい  
ました。

—そんな思春期にあって、教えがどうい  
う形で生きる力となったのでしょうか？

そんな人生も父が亡くなったことで1  
80度変わりました。ひよっとしたら3  
60度。一周回って感じ方、受け止め方  
が変わりました。仏教を学び始めたのは  
父が亡くなったことが縁で京都の学校  
に通いはじめてからです。今思えば伯父  
伯母のお叱りは実はお育てだったのだな  
と。そういう環境にいられたことは今と  
なつては大変ありがたいことだったのだ  
なと思います。

悩んだこと、生きづらさを感じていた  
時期もありました。そういう時期を乗り  
越えられたのは自分自身の力だと思つて

いました。ですが仏教を学び直してそれ  
は違ふと気づかされました。仏さまのお  
育ての中にあつたのだなと気づかされま  
した。

—本山佛光寺をどのような場所にした  
いですか？

面識がなくともつながりがなくとも、  
私たちはお念仏で通じ合っていないけれど  
ならないとの思いがあります。共に、み  
んなで、ということに尽きます。本山内  
を散歩されてもよいですし、縁側では  
んを食べて、境内で横になって昼寝をさ  
れてもいいですし、どんなかたちでも結  
構ですから大勢の人にお寺に足を運んで  
いただきたい。そこから始まるのかなと  
思います。

—慶讃法会に向けて今のお気持ちを  
お聞かせください

慶讃法会に向けてご門徒さんに伝えた  
い事ですが、教えに出遇われるのはお一  
人お一人ですが、受け止め方はおのおの

違います。各自違う方々が、この法要に  
出遇っていたことで、同じお念仏を  
申して生きておられる方々とお出遇い、そ  
して本山が心のふるさととして、違う者  
同士が寄り添い共感できる場に身を置い  
ていただきたいです。そして教えを聞く  
ことによってそれぞれの人生が輝くもの  
になっていただきたい。一人でも多くの  
方々が教えに出遇える場として本山佛光  
寺を抛り所としていただきたいのです。  
今回のこの誌上インタビューが、そう  
いう思いを届けてくださる一助になるこ  
とを念じています。

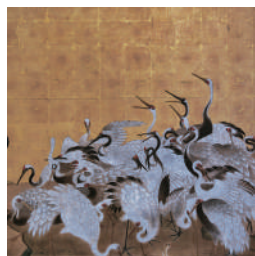




# Bukkōji collection

扉  
TOBIRA

とびら特別号



佛光寺派新潟教区 HP



本山佛光寺 HP



新潟教区 Instagram



二〇二三年十一月発行  
編集・発行元 真宗佛光寺派新潟教区編集局